

患者さんへ

石灰化病変に対してアテローム切除アブレーション式血管形成術用カテーテルを用いた経皮的冠動脈インターベンションにおける光干渉断層像(OCT)所見の検討

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。

このような研究では、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得ることが困難な場合には、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。

なお、研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

1 研究の対象	2017年5月1日～2023年12月31日に当院循環器内科で、冠動脈の狭窄・閉塞が起こり、動脈内の石灰化病変に対してアテローム切除アブレーション式血管形成術用カテーテルを用いた経皮的冠動脈インターベンション(Percutaneous coronary intervention: PCI)を施行した/施行する患者さん
2 研究目的・方法	PCI治療の前後で石灰化厚を評価することが出来る光干渉断層法(Optical coherence tomography: OCT)を行った患者さんにおいて、治療前後のOCT所見を比較することにより、アテローム切除アブレーション式血管形成術用カテーテルの種類によってOCT所見に違いがあるか検討することを目的とします。 通常診療で得られた臨床情報を診療録より使用させていただきます。 研究の期間: 施設院長承認後 ～ 2025年12月
3 情報の利用拒否	情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんのご家族等で患者さんの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としません。その場合は、「5. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。
4 研究に用いる情報の種類	・研究対象者背景(年齢、性別、ボディマス指数など) ・病歴情報(原疾患、合併症・併存症、既往歴など) ・手技・治療に関する情報(カテーテルアクセス部位、カテーテル使用状況、放射線照射の時間、造影剤の使用量、手技前後のOCT所見など) ・その後の転帰(再狭窄や血栓症等の発生状況など)
5 お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先: 札幌東徳洲会病院 循環器内科・医長 片桐 勇貴(研究責任者) 住所: 札幌市東区北33条東14丁目3番1号 連絡先: 011-722-1110(代表)